

## 【万葉古代学研究所彙報】

平成二十年度

- 一月三〇日 奈良県立医科大学特別講義として、寺川眞知夫研究所長・同志社女子大学特任教授（以下、所長と略す）が「古典文学にみえる病氣と治療」を講演。
- 二月 八日 美夫君志会二月例会（中京大学）にて、井上さやか主任研究員（以下、研究員と略す）が「やまと歌と海彼のあいだ」と題して研究発表。
- 二月二六日 友の会共催「万葉文化をよむ」で、竹本晃主任研究員（以下、研究員と略す）が「巻一の世界（上）二二～二四番歌」を講義。
- 二月二七日 JTBカルチャーサロン（東京新宿教室）主催の万葉講座で、井上さやか研究員が「万葉のふるさと飛鳥・藤原」を講演。
- 三月 一日 万葉古代学研究所第三回主宰共同研究「旅と万葉集」の第六回共同研究会を開催。辰巳正明國學院大学教授が「死者の旅―敦煌「十王経」と苗族「焚巾曲」をめぐって―」、藤田富士夫富山市教育委員会理事・埋蔵文化財センター所長が「考古学からみた大伴家持の越中国巡行について／珍敷塚古墳の藤手文／翡翠に

- ついて」を発表。その後、参加者全員での討議を行う。
- 三月 三日 大阪市立大学大学院都市文化研究センタードクター研究員プロジェクト「東アジアと日本古代都城をつなぐ道を探る―外国使節の迎接道―」第八回研究会で、竹本晃研究員が竜田道の踏査を引率。
- 三月 六日 JTBカルチャーサロン（大阪梅田教室）主催の万葉講座で、井上さやか研究員が「万葉のふるさと飛鳥・藤原―早春の里山を訪ねて―」を講演。
- 三月 七日 奈良県立万葉文化館ボランティア研修で、井上さやか研究員が「万葉集の基礎知識」と題して講義。
- 第四回委託共同研究「万葉歌と声の歌との比較研究」（代表・真下厚立命館大学教授）の第一二回共同研究会を開催。
- 三月 八日 奈良県立万葉文化館ボランティア研修で、井上さやか研究員と大館真晴主任研究員（以下、研究員と略す）が館内案内の講師を務める。
- 三月 九日 友の会共催「万葉文化をよむ」で、大館真晴研究員が「巻一の世界（上）二五～二八番歌」を講義。
- 三月一三日 JTBカルチャーサロン主催の万葉講座で、井上さやか研究員が「万葉のふるさと飛鳥・藤原」を講義し、引率講師を務める。

三月一六日 「万葉古代学研究所年報」第七号を発行。

三月一七日 奈良交通・近鉄管理グループ主催の奈良学サロン(国際奈良学セミナーハウス)で、井上さやか研究員が「万葉集にみる稲作文化」と題して講演。

三月二二日 平城遷都一三〇〇年記念・奈良県市町村連携特別企画・奈良まるごと歴史体験博「女帝の時代」で、井上さやか研究員が「古代大和を彩る女帝たち―持統天皇」を講演。

大阪市立大学大学院都市文化研究センタードクター研究員プロジェクト「東アジアと日本古代都城をつなぐ道を探る―外国使節の迎接地道―」第九回研究会で、竹本晃研究員が「大和地域の古道」と題して研究報告。

三月三二日 大館真晴研究員が離任。

平成二十一年度

四月 二日 吉原啓研究員が着任。

四月 三日 テレビ大阪「おとな旅あるき旅」にて、井上さやか研究員が、桜井周辺の万葉故地について解説(四月一日放送)。

四月一〇日 奈良県立大学において、井上さやか研究員が「万葉文化論」(第一回)を講義。

四月一七日 奈良県立大学において、井上さやか研究員が「万葉

文化論」(第二回)を講義。

四月一八日 友の会主催の「万葉」駅からウォーク(桜井駅コース)のウォークイベントで、井上さやか研究員・竹本晃研究員が引率講師を務める。

第五回委託共同研究「万葉の深層を探るエスノアルケオロジー的研究―とくに海洋伝承を中心に―」(代表・後藤明南山大学教授)の第一回共同研究会を開催。

四月二〇日 友の会主催「万葉文化をよむ」で、井上さやか研究員が「巻一の世界(下)二九―三三番歌」を講義。

四月二四日 奈良県立大学において、井上さやか研究員が「万葉文化論」(第三回)を講義。

五月 一日 奈良県立大学において、井上さやか研究員が「万葉文化論」(第四回)を講義。

五月 三日 友の会主催の「万葉」駅からウォーク(天理駅コース)のウォークイベントで、井上さやか研究員・竹本晃研究員が引率講師を務める。

五月 八日 奈良県立大学において、井上さやか研究員が「万葉文化論」(第五回)を講義。

五月一五日 奈良県立大学において、井上さやか研究員が「万葉文化論」(第六回)を講義。

五月一八日 友の会共催「万葉文化をよむ」で、竹本晃研究員が「巻一の世界(上)三四～三九番歌」を講義。

五月二〇日 第三二回万葉古代学研究所講座・キトラ関連展特別講座として、寺川眞知夫所長が「天武・持統陵と『阿不幾乃山陵記』」を講演。

五月二二日 奈良県立大学において、井上さやか研究員が「万葉文化論」(第七回)を講義。

五月二九日 奈良県立大学において、井上さやか研究員が「万葉文化論」(第八回)を講義。

五月三一日 友の会主催の「万葉」駅からウォーク(高田駅コース)のウォークイベントで、井上さやか研究員・竹本晃研究員が引率講師を務める。

六月五日 奈良県立大学において、井上さやか研究員が「万葉文化論」(第九回)を講義。

六月一二日 橿原市立中央公民館主催橿原歴史探訪講座「橿原!再発見」で、竹本晃研究員が「万葉集から学ぶ、万葉人の心」と題して講義。

奈良県立大学において、井上さやか研究員が「万葉文化論」(第一〇回)を講義。

六月一六日 NHK・ETV特集「日本と朝鮮半島二〇〇〇年」の第四回「そして「日本」が生まれた―白村江の敗戦

から律令国家へ―」にて、竹本晃研究員が飛鳥池工房遺跡等について解説(七月二六日放送)。

六月一八日 関西電気管理技術者協会研修会において、井上さやか研究員が「万葉歌にみる古代の暮らし」を講演。

六月一九日 奈良県立大学において、井上さやか研究員が「万葉文化論」(第一一回)を講義。

六月二二日 友の会共催「万葉文化をよむ」で、竹本晃研究員が「巻一の世界(上)四〇～四四番歌」を講義。

六月二六日 奈良県立大学において、井上さやか研究員が「万葉文化論」(第一二回)を講義。

六月二七日 奈良県立万葉文化館主催「JR西日本奈良ステーションキャンペーン」プレキャンペーン「万葉線に乗って」で、「古代氏族の葛藤―物部と石上―」(竹本晃研究員)、「王宮にそびえる聖樹」(辰巳和弘同志社大学教授)、「三輪の檜原」(寺川眞知夫研究所長)、「歌に生まれた宮処―飛鳥・藤原―」(井上さやか研究員)、「香具山の古代」(上野誠研究所副所長・奈良大学教授(以下、副所長と略す))、「風の道・人の道」(中西進奈良県立万葉文化館長)によるリレー講座を実施。

六月三〇日 吉原啓研究員が離任。

七月二日 曹咏梅主任研究員(以下、研究員と略す)が着任。

七月 三日 奈良県立大学において、井上さやか研究員が「万葉文化論」(第一三回)を講義。

七月 九日 (財)ひょうご震災記念21世紀研究機構主催の「ひょうご講座二〇〇九/古代研究の最前線」において、井上さやか研究員が「万葉歌にみる飛鳥・藤原」を講演。  
七月一〇日 奈良県立大学において、井上さやか研究員が「万葉文化論」(第一四回)を講義。

七月 二一日 東京日本橋の奈良まほろば館において、第七回万葉古代学研究所東京講座を開催。寺川眞知夫所長が「狭岑の島の石中死人を視て作る歌」と題して講演。

七月 二三日 友の会共催「万葉文化をよむ」で、井上さやか研究員が「巻一の世界(下)四五〜四九番歌」を講義。

七月 二九日 万葉古代学研究所第三回主宰共同研究「旅と万葉集」の第七回共同研究会を開催。寺川眞知夫所長が「柿本人麻呂の旅―人麻呂は旅において景観をどのようにに表現したか―」、加藤耕義学習院大学外国語教育センター教授が「グリム童話における旅」を発表。その後、参加者全員での討議を行う。

七月 二〇日 万葉古代学研究所第三回主宰共同研究「旅と万葉集」の第八回共同研究会を開催。高橋孝信東京大学教授が「南インド古代の詩人のための旅行案内記」、宮家準慶

応大学名誉教授が「日本宗教における旅―宗教民族学の立場から―」を発表。その後、参加者全員での討議を行う。

七月 二三日 奈良県教育研究所主催の「伝統的な言語文化」研修において、上野誠副所長が「八方破れの古典教育―現代教育私感―」、井上研究員が「『万葉集』を学ぶための体験学習に向けて」と題して講座を実施。竹本晃研究員が特別展示室を案内し解説。

七月 二四日 奈良県立大学において、井上さやか研究員が「万葉文化論」(第一五回)を講義。

七月 二五日 第三三回万葉古代学研究所講座で、竹本晃研究員が「石神遺跡とは何だったのか」を講義。

第五回委託共同研究「万葉の深層を探るエスノアルケオロジー的研究―とくに海洋伝承を中心に―」(代表・後藤明南山大学教授)の第二回共同研究会を開催。七月 三一日 夏休み子ども万葉教室で、井上さやか研究員が講師を務める。

八月 一日 中国大連外国語大学日本語学院講師の張士傑氏が、平成二十一年度万葉古代学研究所海外研修員として着任。

夏休み子ども万葉教室で、竹本晃研究員が講師を務

める。

東京日本橋の奈良まほろば館において、第八回万葉古代学研究所東京講座を開催。上野誠副所長が「大和三山の古代」と題して講演。

八月 二日 夏休み子ども万葉教室で、曹咏梅研究員が講師を務める。

八月 五日 奈良女子大学にて開催された奈良女子大学古代学学術研究センター主催、万葉古代学研究所共催の二〇〇九年度若手研究者支援プログラム「正倉院文書を考える」に、曹咏梅研究員が出席。

八月 六日 奈良女子大学古代学学術研究センターと共催の二〇〇九年度若手研究者支援プログラム「正倉院文書を考える」で、竹本晃研究員が「甘樫丘東麓遺跡の概要」と題して万葉文化館で講義し、現地踏査の引率講師も務める。

八月 八日 第三四回万葉古代学研究所講座で、上野誠副所長が「万葉歌木簡は語る」を講義。

友の会主催「らくらく万葉再発見・万葉文化館を楽しむ①」で、竹本晃研究員が飛鳥池工房遺跡および特別展示室について引率講師を務める。

八月 九日 東京日本橋の奈良まほろば館において、第九回万

葉古代学研究所東京講座を開催。井上さやか研究員が「『万葉集』一二五〇年紀」と題して講演。

八月一七日 友の会共催「万葉文化をよむ」で、竹本晃研究員が「巻一の世界（上）五〇～五三番歌」を講義。

八月二日 檀原市主催の香久山地域学級万葉講座にて、井上さやか研究員が「万葉集に詠まれた檀原と明日香」と題し、講演。

八月二三日 第三五回万葉古代学研究所講座で、井上さやか研究員が「『万葉集』からみた古代のアジア」を講義。

八月二九日 第三六回万葉古代学研究所講座で、曹咏梅研究員が「歌垣にみる歌の闘争」を講義。

「東アジアにおける中原文化の受容と展開」国際シンポジウム（中国・鄭州大学）で、竹本晃研究員が「坊における生活空間の中日比較―藤原京と隋唐時代の洛陽・長安城―」と題して報告。

八月三〇日 万葉古代学研究所第三回主宰共同研究「旅と万葉集」の第九回共同研究会を開催。神崎宣武旅の文化研究所長が「酒にみる伝統と変容」、ウェップ・ジェイスン東京大学東洋文化研究所准教授が「アメリカ南部の歌謡における『旅』」を発表。その後、参加者全員での討議を行う。

九月二日 友の会主催「らくらく万葉再発見・飛鳥音楽散歩」で、井上さやか研究員が飛鳥古宮跡等について引率講師を務める。

九月一四日 友の会共催「万葉文化をよむ」で、曹咏梅研究員が「巻一の世界（下）五四〜六一番歌」を講義。

九月二三日 友の会主催「大和三山万葉ウォーク・耳成山から横大路、磐余の道へ」にて、井上さやか研究員が引率講師を務める。

九月二七日 第四回万葉古代学研究所委託共同研究「万葉歌と声の歌との比較研究」の研究成果発表として、第六回万葉古代学研究所公開シンポジウム「アジアの歌と万葉集」を開催。総論として、真下厚立命館大学教授が「万葉歌と声の歌」を、基調報告として、工藤隆大東文化大学教授が「中国湖南省苗族歌文化調査報告」、狩俣恵一沖縄国際大学教授が「古代歌謡と沖縄の歌文化」、岡部隆志共立女子短期大学教授が「対歌の力―中国雲南省白族の歌文化と万葉集―」、手塚恵子京都学園大学准教授が「うたう歌・書く歌―中国広西省壮族の掛け歌より―」、リュドミラ・エルマコワ神戸市外国語大学教授が「ロシアの掛け歌―KHOROVODについて―」をそれぞれ講演。

九月二八日 NHK文化センター万葉二二五〇周年記念・魅力再発見の旅「奈良・奥明日香」にて、井上さやか研究員が「『万葉集』からみた飛鳥」と題し講演。

一〇月二日 奈良県立医科大学において、井上さやか研究員が「万葉の文学と奈良文化」（第一回）を講義。

一〇月九日 奈良県立医科大学において、井上さやか研究員が「万葉の文学と奈良文化」（第二回）を講義。

一〇月二一日 美夫君志会一〇月例会にて、井上さやか研究員が「黄葉の宴―馬場南遺跡との関わりを考える―」と題して研究発表。

一〇月二六日 奈良県立医科大学において、井上さやか研究員が「万葉の文学と奈良文化」（第三回）を講義。

一〇月二七日 田原本観光協会主催の「田原本町観光協会歴史講座」にて、井上さやか研究員が「田原本の万葉歌」を講演。

一〇月二九日 友の会共催「万葉文化をよむ」で、井上さやか研究員が「巻一の世界（下）六二〜六三番歌」を講義。

一〇月二〇日 朝日JTB文化交流塾主催の講座にて、井上さやか研究員が「万葉のふるさとを訪ねて―秋の飛鳥散歩―」を講義。

一〇月二三日 奈良県立医科大学において、井上さやか研究員が「万葉の文学と奈良文化」（第四回）を講義。

一〇月二七日 読売旅行主催「正倉院展と飛鳥の謎の石像物」にて、万葉集関連ミニ展示を実施（十一月五日まで）。

十一月三日 朝日JTB文化交流塾主催の踏査「万葉のふるさとを訪ねて―秋の飛鳥散歩―」にて、井上さやか研究員が引率講師を務める。

十一月六日 奈良県立医科大学において、井上さやか研究員が「万葉の文学と奈良文化」（第五回）を講義。

十一月八日 奈良県立万葉文化館ボランティア研修で、曹咏梅研究員が「万葉集と中国の古代歌謡」を講義。

十一月十日 奈良芸術短期大学明日香学特別講座にて、井上さやか研究員が「明日香と万葉―1―」を講義。

十一月十三日 奈良県立医科大学において、井上さやか研究員が「万葉の文学と奈良文化」（第六回）を講義。

十一月十四日 第五回委託共同研究「万葉の深層を探るエスノアルケオロジー的研究―とくに海洋伝承を中心に―」（代表・後藤明南山大学教授）の第三回共同研究会を開催。

十一月十五日 第五回委託共同研究「万葉の深層を探るエスノアルケオロジー的研究―とくに海洋伝承を中心に―」（代表・後藤明南山大学教授）の第四回共同研究会を開催。

十一月十六日 友の会主催「万葉文化をよむ」で、竹本晃研究員が「巻一の世界（上）六四〜六九番歌」を講義。

十一月二十日 奈良県立医科大学において、井上さやか研究員が「万葉の文学と奈良文化」（第七回）を講義。

十一月二十二日 万葉古代学研究所第三回主宰共同研究「旅と万葉集」の第一〇回共同研究会を開催。廣田律子神奈川大学教授が「祭祀儀礼に見る旅―中国湖南ヤオ族の通過儀礼を事例として―」、兵藤裕己学習院大学教授が「平家物語と旅について―旅の神、道祖神、シユク神、地神―」を発表。その後、参加者全員での討議を行う。

十一月二十三日 万葉古代学研究所第三回主宰共同研究「旅と万葉集」の第一一回共同研究会を開催。伊東信宏大阪大学准教授が「ロマ（ジプシー）の旅と音楽」、曹咏梅研究員が「放浪詩人金笠について」を発表。その後、参加者全員での討議を行う。

十一月二十四日 奈良芸術短期大学明日香学特別講座にて、井上さやか研究員が「明日香と万葉―2―」を講義。

十一月二十六日 近畿図書専門部会にて、井上さやか研究員が「万葉集一二五〇年の軌跡」と題して講演。

十一月二十九日 奈良県主催「観光列車『旅万葉』試乗会」で、竹本晃研究員が荒木神社で「浮田の杜の万葉歌」と題してミニ講座、桜井駅から五条駅までを井上研究員が、五条駅から高田駅までを竹本晃研究員が担当し、それぞれ

れラッピング列車内での万葉解説を実施。

十一月三〇日 第二回NARA万葉世界賞の贈呈について、審議会を開催。

十二月 二日 奈良県立大学遷都一三〇〇年記念特別講座にて、井上さやか研究員が『万葉集』からみた平城京」と題して講演。

十二月 四日 奈良県立医科大学において、井上さやか研究員が「万葉の文学と奈良文化」(第八回)を講義。

十二月 六日 友の会主催の特別講座として、曹咏梅研究員が「神々の授けた恋愛歌」を、張士傑海外研修員が「憶良の愛情と儒家思想」を講義。

十二月 二日 奈良県立医科大学において、井上さやか研究員が「万葉の文学と奈良文化」(第九回)を講義。

十二月 四日 友の会共催「万葉文化をよむ」で、曹咏梅研究員が「巻一の世界(下)七〇～七五番歌」を講義。

第六回委託共同研究の採用について、審議会を開催。

十二月 二八日 奈良県立医科大学において、井上さやか研究員が「万葉の文学と奈良文化」(第一〇回)を講義。

十二月 二〇日 万葉古代学研究所第三回主宰共同研究「旅と万葉集」の第一二回共同研究会を開催。上野誠副所長が「宅

庄往来の文芸」を発表。その後、参加者全員での討議を行い、二年間の総まとめを行う。

一月 八日 奈良県立医科大学において、井上さやか研究員が「万葉の文学と奈良文化」(第一一回)を講義。

一月 二〇日 藤井麻未研修員の研修を開始。井上さやか研究員が指導を担当。

一月 二一日 大門敦子研修員の研修を開始。寺川眞知夫所長が指導を担当。

一月 二九日 張士傑海外研修員・竹本晃研究員が、奈良県庁における海外研修員研修成果報告会に出席。張研修員が研修成果を発表。

一月 二二日 奈良県立医科大学において、井上さやか研究員が「万葉の文学と奈良文化」(第一二回)を講義。

一月 二五日 友の会共催「万葉文化をよむ」で、井上さやか研究員が「巻一の世界(下)七六～七七番歌」を講義。

一月 二六日 張士傑海外研修員が中国に帰国。



◆専任研究員のおもな業績（平成二十一年二月～平成二十二年一月）

井上さやか

〔研究論文〕

○「古代東アジアの相関関係―万葉歌における地名表現から―」

（『万葉古代学研究所年報』七号）平成二十一年三月

○「『万葉集』の世界観―海彼の地名と境界認識について―」（美

夫君志会編『万葉集の今を考える』新典社）平成二十一年七月

〔研究発表〕

○「やまと歌と海彼のあいだ」（美夫君志会例会）平成二十一年

二月

○「黄葉の宴―馬場南遺跡との関わりを考える―」（美夫君志会

例会）平成二十一年十月

〔その他〕

○JR西日本駅から散策eマップ「天理駅」・「桜井駅」・「高田

駅」（各マップとも）平成二十一年三月

○「古代のコスモポリタン」（茨城県天心記念五浦美術館「万葉

集一二五〇年記念 万葉のころを描く」展覧会図録資料）平

成二十一年四月

○「万葉のころを描く」（『月刊美術』五月号）平成二十一年五

月

○「私論公論／一三〇〇年前の人々の心」（『京都新聞』九月二五

日号）平成二十一年九月

大館 真晴（平成二十一年三月三十一日退任）

〔研究論文〕

○「豊後国風土記・大分郡にみる地名起源の方法―古風土記にみ

る詠嘆の助字「哉」・「乎」の検討から―」（『万葉古代学研究所

年報』七号）平成二十一年三月

〔その他〕

○「万葉歌の魅力をさぐる⑮／十年の思い」（『天飛ぶ』二十三号）

平成二十一年三月

竹本 晃

〔研究論文〕

○「万葉歌木簡一考―あさなぎ木簡―」（『万葉古代学研究所年報』

七号）平成二十一年三月

○「日本木簡的研究探索方法」（『唐都学刊』二〇〇九年第二十五

卷第六期（総期））平成二十二年十一月

〔研究発表〕

○「坊における生活空間の中日比較―藤原京と隋唐時代の洛陽・

長安城―」（「中原文化在東亜的流播与影響」国際学術検討会）  
平成二十一年八月

〔その他〕

○JR西日本駅から散策e30マップ「天理駅」・「桜井駅」・「高田駅」（各マップとも）平成二十一年三月

○「万葉万華鏡⑥／三輪山」（「harano」二十五号）平成二十一年六月

○「万葉歌の魅力をさぐる⑩／空間と時間の観念を考える」（「天飛ぶ」二十四号）平成二十一年七月

○「慶州のみやげばなし」（大阪市立大学新羅遺跡学術調査団（栄原永遠男）編「新羅遺跡踏査の記録―2008年8月―」平成二十一年六月

○「正倉院文書」（「万葉図書・情報室だより」二十五号）平成二十一年十一月

曹 咏梅（平成二十一年七月二日着任）

〔研究論文〕

○「中国少数民族の通せんぼの習俗と対歌」（「國學院雑誌」第一一〇巻第十一号）平成二十一年十一月

〔その他〕

○朝戈金氏講演「中国民族文学研究の現状と今後」同時通訳（國

學院大學文学部講演会）平成二十一年十月

○「万葉歌の魅力をさぐる⑩／いとしい女性への思い―さらさら―」（「天飛ぶ」二十五号）平成二十一年十一月

○「万葉万華鏡⑧／わが宿の梅」（「harano」二十七号）平成二十一年十二月